

## 1. 政治・外交分野

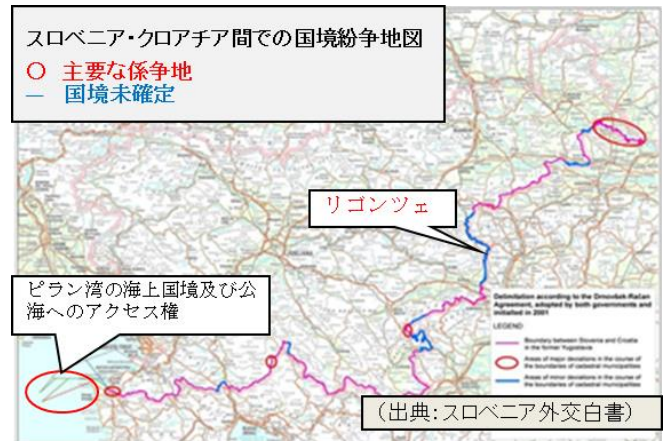
スロベニアに迫る！① (2015年11月号)

### スロベニアとクロアチアの国境問題

スロベニアは約668キロにわたり東部国境をクロアチアと接していますが、旧ユーゴ時代に国境が明確でなかったことが主な原因で未だ8か所で国境が画定しておらず、両国の争いの種となっています。

そのため両国は、2009年に本問題を仲裁裁判所に付託する仲裁協定を締結し、現在も審理が継続中です。しかし、本年7月にクロアチアメディアがスロベニア選出裁判官の電話会話の盗聴記録を公表したことを受け、クロアチア政府が同仲裁協定からの脱退を一方的に通告しました。

11日にスロベニア政府がフェンスを設置したリゴンツェ付近は、係争地となっている多くの国境のうちの一つです。



スロベニアに迫る！③ (2015年11月号)

### スロベニア軍の国際貢献

国防省によると、現在397人のスロベニア軍兵士が、国連、EU及びNATOの様々な軍事作戦に参加しています。そのうち、305人がNATO主導のコソボ治安維持部隊、49人がEU主導の地中海における人身取引及び密輸ビジネス対策にあたる「ソフィア作戦」に従事しています。その他スロベニア軍兵士は、ボスニア・ヘルツェゴビナ(14人)、レバノン(14)、アフガニスタン(7)、マリ(3)、シリア(3)、マケドニア(1)、セルビア(1)で活躍しています(2015年10月現在)。

スロベニアに迫る！③⑤ (2016年11月号)

### 2001年のアメリカ・ロシア首脳会談

11月に実施されたアメリカ大統領選挙でトランプ候補が当選し、今後のアメリカ・ロシア関係の行方に注目が集まっていますが、過去にスロベニアにて両国の歴史的な首脳会談が開催されたことはあまり知られていません。

2001年6月16日、ブッシュ・アメリカ大統領とプーチン・ロシア大統領による初の首脳会談がスロベニア北部、ブルドー・プリ・クラニユにて開催されました。両大統領のスロベニアの滞在時間は約7時間と非常に短いものですが、双方ともスロベニアでの首脳会談は成功であったと評価し、お互いの国への訪問に招待するなど、個人的な関係を築ききっかけとなりました。

ツェラル首相は、AP通信の取材に対し、もしトランプ次期大統領とプーチン大統領から話があれば、スロベニアはアメリカとロシアの架け橋となり得ると述べています。再びスロベニアで首脳会談が開催されるのか注目です。



(写真: ljubljana-summit.gov.si)

## スロベニアに迫る！③ (2016年11月号)

### スロベニア出身のファーストレディー

11月のアメリカ大統領選におけるトランプ氏の勝利はスロベニアにとって特別な意味を持つものになりました。来年のトランプ大統領の就任により、スロベニア出身のファーストレディーが誕生します。

メラニア・トランプ (Melania Trump) 夫人は現在46歳。スロベニア南東部の小さな町であるセヴニツァ (Sevnica) の生まれで、高校からリュブリャナ市で学びました。リュブリャナ大学を1年で中退しましたが、語学に優れ、5カ国語を操ります。180cmの見事なスタイルを生かして16歳からモデルとしての活動を開始し、18歳でミラノのモデル事務所と契約しました。1996年に活動の拠点をアメリカに移し、2001年からはアメリカに永住しています。その後、2005年にトランプ氏と結婚しました。

メラニア夫人の存在はスロベニアの世界的な知名度を上げ、政治や経済をはじめ、あらゆる分野で良い影響が出ることが期待されています。実際、昨年のアメリカからスロベニアへの旅行者数は前年比で23%も増加しており、「メラニア効果」と言われています。



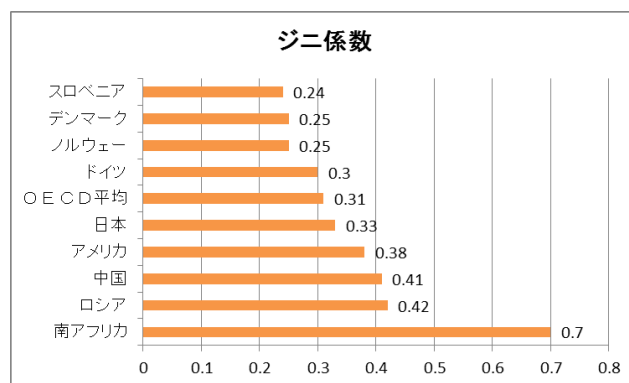
(写真: Melania Trump氏facebookより)

## 2. 経済分野

### スロベニアに迫る！② (2015年11月号)

#### 平等の国、スロベニア

OECDの統計(2013年 Factbook)によると、スロベニアは全OECD加盟国の中で、最も収入が平等な国とされています。スロベニアのジニ係数(富の平等を表す数値で、0が完全な平等、1が完全な不平等)は0.24で、ノルウェーやデンマークなどのスカンジナビア諸国を抑えて第1位となっています。ちなみに日本のジニ係数は0.33でOECD加盟国の平均の0.31をやや上回っています。



### スロベニアに迫る！④ (2015年11月号)

#### スロベニア人の所得

スロベニアでは累進課税制度を採用しており、所得税を4つの区分の税率に従って支払います(第1区分:課税対象所得の8021ユーロ未満部分(16%)、第2区分:1万8960ユーロ未満部分(27%)、第3区分:7万907ユーロ未満部分(41%)、第4区分:7万907ユーロ以上部分(50%))。

この中で課税対象所得が第1区分のみに該当する納税者は全体の60%で最も多く、第2区分や第3区分まで達する人はそれぞれ31%と8%となっています。第4区分の税率が適用される納税者は全体の0.34%だけです。

### スロベニアに迫る！⑪ (2016年2月号)

#### スロベニア人の平均月収

スロベニア統計局の発表によると、2015年のスロベニア人の平均月収は、総賃金が1556ユーロ、純賃金が1013ユーロでした。2014年と比べ、総賃金は名目で0.7%、デフレのため実質では1.2%増加しました。職種別に見ると、エネルギー部門での賃金が最も高く(純賃金で1438ユーロ)、事務職の賃金が最も低い(同705ユーロ)結果となりました。

地域別に見ると、首都のリュブリャナがあり、政治と経済の中心である中央スロベニア地域が最も高く、唯一国内平均を上回っています。その他、上位に位置する南スロベニア地域は製薬会社のクルカ(krka)社をはじめ大企業の工場を擁しており、また、沿岸カルスト地方はピラン市など観光業が盛んな地域です。

地域	総賃金(EUR)	純賃金
スロベニア平均	1556	1013
1. ゴリシュカ	1487	985
2. ゴレンスカ	1545	1011
3. コロシュカ	1454	957
4. ドラヴァ	1420	939
5. ポムリエ	1384	923
6. 中央スロベニア (リュブリャナ等)	1720	1099
7. 中央サヴァ	1379	914
8. サビニヤ	1430	945
9. 沿岸カルスト	1533	998
10. ノトリスコ・カルスト	1374	1011
11. 南スロベニア	1560	1022
12. 南サヴァ	1446	955



## スロベニアに迫る！⑩ (2016年3月号)

### リサイクル素材を使った製品開発

スロベニアは豊かな自然に恵まれた、環境意識の高い国として知られており、多くのスロベニア企業が環境に配慮したエコ商品の開発に取り組んでいます。また、環境意識の高いスロベニア国民は、自転車好きとしても知られており、リュブリャナ市をはじめとし、全土にサイクリング・ロードが整備されています。この2つのスロベニアの特性を融合させた商品をご紹介します。現在、ベンチャー企業「Ziggie Bag Team」が開発中の自転車用バッグ「Ziggie Bag」は古タイヤのチューブを素材として製造され、貴重品の収納のみならず、スマートフォンの充電機能やLEDライトも装備しています。ちなみに、同社のスローガンは「Don't just cycle... Recycle」だそうです。ご関心のある方は、次のクラウド・ファンディング・サイトで商品化に協力してみても如何でしょうか。



<https://www.kickstarter.com/projects/1313897411/ziggie-bag-dont-just-cyclerecycle>

## スロベニアに迫る！⑪ (2016年4月号)

### スロベニア主要企業の輸出

日刊デロ紙が2015年のスロベニア企業の輸出額に関するランキングを発表し、スロベニア南東部に所在する製薬会社であるクルカ(Krka)社が第1位となりました。続く第2位には大手家電メーカーのゴレニエ(Gorenje)社、第3位には製薬会社のレク(Lek)社が入りました。ベスト10は以下の表のとおりです。

2015年におけるクルカ社やゴレニエ社の輸出額は前年に比べ減少したものの、ランキング上位30社のうち8社の輸出は、前年比で二桁の成長率を記録しました。

	企業名 (出資企業の国籍)	事業分野	輸出額 (千ユーロ)
1	Krka(スロベニア)	製薬	1,085
2	Gorenje(日本他多国籍)	家電製造	1,049
3	Lek(スイス)	製薬	1,022
4	Revoz(フランス)	自動車	1,019
5	SIJ(ロシア)	金属加工	580
6	Impol(スロベニア)	金属加工	520
7	Korektor(スロベニア)	機械部品製造	282
8	Talum(スロベニア)	金属加工	247
9	Julon(イタリア)	繊維	213
10	LTH(多国籍)	金属加工	203

## スロベニアに迫る！⑫ (2016年4月号)

### スロベニアの競争力(IMD競争力ランキング)

スイスの国際経営開発研究所(IMD)は、2016年の競争ランキングを発表し、スロベニアは昨年より6つ順位を上げて43位となりました。

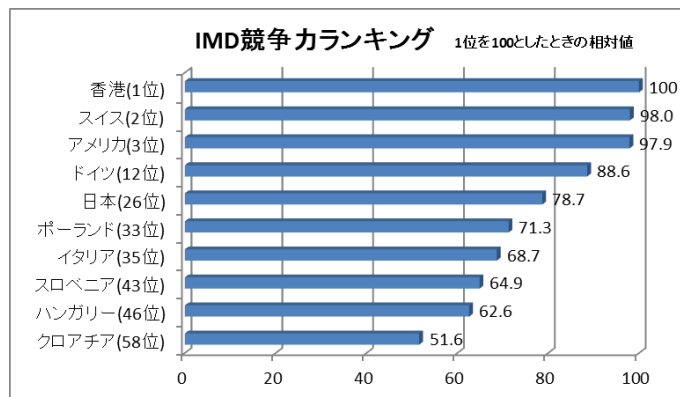
評価対象の4分野の中で、スロベニアは「インフラ」分野で最高の30位を獲得しましたが、「ビジネスの効率性」では53位にとどまり、労働市場や海外企業への開放が大きな課題となっています。

他方で、労働者の高度な教育水準と信頼性の高いインフラがスロベニアの強みで、R&Bも他の中東欧諸国に比べて高水準となっています。

各分野におけるスロベニアの順位と主な国の順位は以下のとおりです。

#### 【評価対象4分野におけるスロベニアの順位】

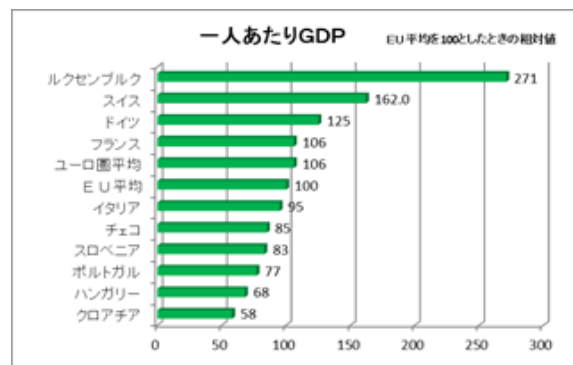
- ・総合評価:43位(昨年49位)
- ・経済状況:43位(昨年42位)
- ・政府の効率性:45位(昨年52位)
- ・ビジネスの効率性:53位(昨年56位)
- ・インフラ:30位(昨年33位)



#### スロベニアに迫る! ㉓ (2016年6月号)

##### 2015年スロベニアの一人あたりGDP

スロベニア統計局は、2015年の一人あたりGDP(購買力平価)を発表し、EU平均を100とした場合、スロベニアは前年とかわらず83%でした。スロベニアはチェコ(85)、マルタ(89)を下回り、キプロス(81)、スロバキア(77)及びポルトガル(77)を上回りました。ちなみに2015年のスロベニアの一人あたりGDPは1万8680ユーロを記録しています。



#### スロベニアに迫る! ㉔ (2016年8月号)

##### スロベニア企業発のアイデア商品

スロベニアの企業は高い技術力とアイデアを生かした商品を開発・販売しています(昨年12月号でも少し紹介しておりますのでご覧ください)。

電子ペーパー機器などを販売する企業、「Visionect」社は、美術館・博物館向けの電子ペーパーラベルの供給を開始しました。展示品紹介に利用されるこの電子ペーパーラベルは、コスト削減につながるほか、観覧者が指でタッチすると表示言語を切り替える機能を追加できるなどの利点があります。また、シンガポール交通局は、同社のカラー電子ペーパーを国内11箇所のバス停留所のディスプレイ装置として試験採用することを決定しました。この電子ペーパー機器は、太陽電池のみで稼働し、夜間にフロントライト表示させる設計になっています。

○Visionect 社 HP: <https://www.visionect.com/>

また、「Ulla」社は、コップやペットボトルに装着し、こまめで十分な水分補給を促すバンド型デバイスを販売し、すでに10万個を売り上げています。このデバイス「Ulla」にはセンサーが内蔵されており、水分補給のタイミングをLEDライトが光ることで知らせ、飲むだけで自動的に消える仕組みです。販売価格は1つ24.9ドルとなっています。

○Ulla 社 HP: <https://www.ulla.io/>



Ulla社のバンド型デバイス(写真は同社HPより)

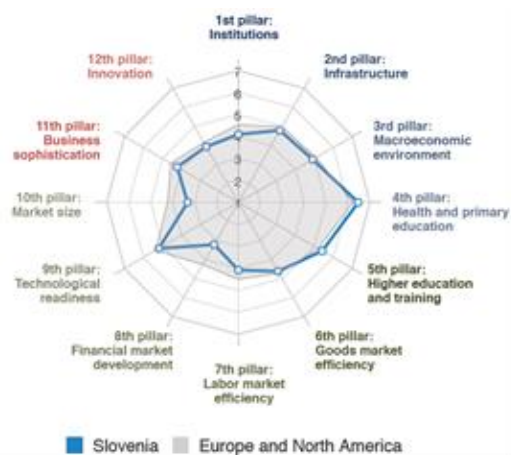
## スロベニアに迫る！③① (2016年9月号)

### World Economic Forum 競争力ランキング

World Economic Forum の競争力ランキングが発表され、スロベニアは昨年より3つ順位を上げ138カ国中56位となり、1～7で評価される全体評価は4.39を記録しましたが、金融市場の発展が一番低く118位のとどまり、労働市場の効率性が85位、市場規模が同じく85位で課題となりました。これに対して、健康及び初等教育では16位、高等教育では22位、イノベーションでは33位、技術力では35位、インフラが39位と高評価でした。報告書では、スロベニアの課題として特に税制、非効率な公共サービス、制限的な労働法制、政治の不安定性が挙げられています。

中東欧地域では、チェコ(31位)、ポーランド(36位)に次ぐ3位で、スロバキア(65位)、ハンガリー(69位)より上位となり、旧ユーゴ諸国では、クロアチア(74位)、セルビア(90位)を押さえ最上位を獲得しました。

#### スロベニアのカテゴリー別順位



	Rank / 138	Score (1-7)	Trend	Distance from best
Global Competitiveness Index	56	4.4	—	—
Subindex A: Basic requirements	38	5.1	—	—
1st pillar: Institutions	58	4.1	—	—
2nd pillar: Infrastructure	39	4.8	—	—
3rd pillar: Macroeconomic environment	58	4.9	—	—
4th pillar: Health and primary education	16	6.5	—	—
Subindex B: Efficiency enhancers	54	4.3	—	—
5th pillar: Higher education and training	22	5.4	—	—
6th pillar: Goods market efficiency	42	4.6	—	—
7th pillar: Labor market efficiency	85	4.1	—	—
8th pillar: Financial market development	118	3.2	—	—
9th pillar: Technological readiness	35	5.2	—	—
10th pillar: Market size	84	3.3	—	—
Subindex C: Innovation and sophistication factors	37	4.1	—	—
11th pillar: Business sophistication	48	4.2	—	—
12th pillar: Innovation	33	3.9	—	—

## スロベニアに迫る！③② (2016年9月号)

### デロイト社の中欧企業ランキング

デロイト・セントラル・ヨーロッパ社は、2016年の中欧企業トップ500を発表しました。本ランキングは、各企業の2015年の業績に基づき、中・東欧諸国18国(EU加盟11カ国、旧ユーゴ4カ国、ウクライナ、アルバニア及びモルドバ)の企業規模を順位付けしたものです。

本年のランキングでは、上位500企業にスロベニアから17企業が入りました。スロベニアで最上位だったのは30位のペトロール社(Petrol、石油製品)で、続いて48位にメルカトル社(Mercator、小売業)、90位に GEN-I 社(電力・ガス)が入りました。

また業種別のトップ50では、銀行部門で新リュブリャナ銀行(NLB)が19位に入り、保険業部門では、6位のトリグラウ保険(Triglav)をはじめ5社がランクインしました。

#### 企業トップ500

順位	会社名	分野	国籍	業績 (百万ユーロ)
1	PKN Orlen	エネルギー	ポーランド	21,109
2	MOL	エネルギー	ハンガリー	13,263
3	Škoda Auto	自動車	チェコ	11,548
30	Petrol Group	エネルギー	スロベニア	3,817
48	Mercator Group	小売業	スロベニア	2,612
90	GEN-I Group	エネルギー	スロベニア	1,731
122	Mercator Co.	小売業	スロベニア	1,403
148	Gorenje Group	家電製品	スロベニア	1,225
151	HSE Group	エネルギー	スロベニア	1,224
162	Krka Group	製薬	スロベニア	1,165
187	Lek Group	製薬	スロベニア	1,059

#### 保険会社トップ50

順位	会社名	国籍	プレミアム (百万ユーロ)
1	PZU Poland	ポーランド	4,387
2	Ergo Hestia Poland	ポーランド	1,282
3	WARTA Poland	ポーランド	1,251
6	Zavarovalnica Triglav Group	スロベニア	919
13	Sava Re Group	スロベニア	486
28	Adriatic Slovenica	スロベニア	298
30	Vzajemna	スロベニア	275
34	Zavarovalnica Maribor	スロベニア	249

#### 銀行トップ50

順位	銀行名	国籍	資産(百万ユーロ)
1	PKO Bank Polski	ポーランド	62,640
2	Bank Pekao Poland	ポーランド	39,607
3	Česká spořitelna	チェコ	35,507
19	NLB Group	スロベニア	11,822

## スロベニアに迫る！③③ (2016年10月号)

### スロベニアの海外直接投資(FDI)と対外直接投資(EDI)

スロベニア中央銀行は、2015年のスロベニアへの海外直接投資(FDI)及びスロベニアによる対外直接投資(EDI)に関する報告書を発表しました。

2015年におけるスロベニアへのFDI総額はストック値で対前年比13.4%増となる115億6000万ユーロを記録し、新規投資の主要な投資分野は、金融、保険及び不動産業でした。投資の80%以上はEU加盟国からの投資で、オーストリアからの投資が最も多い35億4500万ユーロで全体の30.7%を占め、日本からのFDIは7100万ユーロ(全体の0.6%)で前年より2倍以上に増加しました。

一方、2015年におけるスロベニアによるEDI総額はストック値で対前年比2.4%増の54億6000万ユーロとなり、EDI総額の60%超は旧ユーゴ諸国向けでした。

#### スロベニアへの主要投資国(FDI上位5カ国)

順位	国名	総額(百万ユーロ)	割合(%)
1	オーストリア	3,545.2	30.7
2	スイス	1,313.3	11.4
3	ドイツ	1,083.1	9.4
4	オランダ	1,019.4	8.8
5	クロアチア	938.3	8.1
	日本	71.1	0.6
	合計	11,564.5	100

#### スロベニアの主要投資先(EDI上位5カ国)

順位	国名	総額(百万ユーロ)	割合(%)
1	クロアチア	1,448.8	26.5
2	セルビア	996.1	18.2
3	ボスニア・ヘルツェゴビナ	480.5	8.8
4	マケドニア	396.4	7.3
5	ロシア	305.3	5.6
	日本	2.3	0.04
	合計	5,460.6	100

## スロベニアに迫る③④ (2016年10月号)

### スロベニア発スーパーハイエンド・スピーカー

スロベニアのZP Speaker Lab社は、知る人ぞ知る最高級のスピーカーメーカーです。最高品質の材料を使用し、熟練の職人達の手作業で丁寧に組み立てられるスピーカーは心に響く本物の音色と表現力を有する「憧れの名機」として世界中の愛好家をとりにしています。

同社は1983年にズヴォネ・ラスポル(Zvone Raspor)氏により設立され、同氏の30年以上にわたって1万5000機のスピーカーやオーディオの修理で培った確かな技術を元に、顧客の要望に応えるハイエンドな商品を提供しています。今秋には他の商品より価格を抑えた「ZR Entry Line」(15万8000円～)がラインナップに加わりました。興味をお持ちの方は同社ホームページをご覧ください。

ZP Speaker Lab社ホームページ: <http://www.zr-speakerlab.si/products.html>



(写真: ZP Speaker Lab社ホームページ)

## 3. 社会・文化・スポーツ分野

### スロベニアに迫る！⑤ (2015年12月号)

#### スロベニアにおける同性婚の動き

スロベニアでは、2015年3月に、国民議会において婚姻・家族関係法改正案が可決され、同性婚が法律上認められることとなりました。それまでは同性カップルは行政登録のみ認められており、異性間のカップルと同じ権利は享受していませんでしたが、法改正により、婚姻については、性別に関わらず2名による共同生活として再定義され、異性間の婚姻・同棲と同じ法的、経済的、社会的効力が同性カップルにも適用されることとなりました。

しかしながら、カトリック教会系市民団体など保守的な勢力が、同法改正の施行前にこれを廃止するため国民投票の実施を求め、20日に行われた投票の結果、同案は否決されました。

同性婚をめぐるのは、以前2011年制定の家族法で認められましたが、その際にも2012年に実施された国民投票により同法が否決されています。

### スロベニアに迫る！⑥ (2015年12月号)

#### スロベニアの国民的詩人、プレシェーレン

フランツ・プレシェーレンは、19世紀に活躍したロマン派のスロベニア詩人で、後のスロベニア文学に多大な影響を与え、国民的作家として広く知られています。プレシェーレンの詩は情緒的、叙情的で、愛国心や人間の苦悩、そして片思いの相手であるユリア・プリミツへの想い等が詠われており、スロベニア国歌も彼の詩です。

旧市街の中心に位置する広場がプレシェーレンの名を冠しているほか、スロベニア芸術界の最高賞はプレシェーレン賞と名付けられており、その功績の偉大さを物語っています。



### スロベニアに迫る！⑦ (2015年12月号)

#### 独立から25年、社会に対するスロベニア人の評価

スロベニア独立25周年に際し、日刊デロ紙が世論調査を行い、①25年前の独立の決断を「評価する」と答えた人は82%、「評価しない」と答えた人は5%でした。また、②独立後25年経った今のスロベニアについて、「満足している」と回答した人は23%、「満足していない」は45%、「どちらとも言えない」が31%でした。一方、③スロベニアの民主主義の現状については、「満足している」が12%であったのに対し、「満足していない」は52%にのぼり、「どちらとも言えない」は31%でした。

### スロベニアに迫る！⑧ (2016年1月号)

#### スロベニアの方言

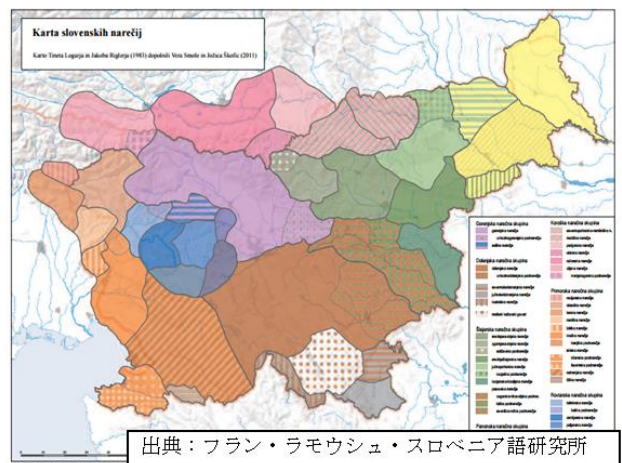
スロベニア語は、スラブ語の中でも話者数の少ない言語のひとつですが、方言は非常に多彩で、専門家によると約50近くの方言があるとされています。そのため、同じスロベニア人でも出身地が違えば内容が理解できないことがしばしば起こります。

方言が多様な要因として、山がちな地形の影響で長きにわたり近隣都市との交流が制限されていたことや様々な国の支配を受けた複雑な歴史背景があります。また、隣国の影響も大きく、例えば「こんにちは」をイタリアに近い西の沿岸部では「チャオ(Čao、Caio)」と言い、南部ではクロアチア語の「ボク(Bok)」が好まれます。

スロベニア語は、16世紀にプリモシュ・トゥルバル(Primož Trubar)によって初めて体系化され、現在の書き言葉や公共メディアで使用される標準語はこの流れをくんでいます。スロベニア国内で一番方言の影響が小さく、標準語に近い地域は、東部の古都ツェリエ市と言われています。

方言は大きく以下の7グループに分けられます。

- ① ゴレンスカ(中央部:紫)
- ② ドレンスカ(南東部:茶色、灰色)
- ③ シュタイエルスカ(北東部:緑)
- ④ パノスカ(北東部:黄色)
- ⑤ コロシュカ(北部:ピンク)
- ⑥ プリモルスカ(西部:オレンジ)
- ⑦ ロウタルスカ(中央部:青)



## スロベニアに迫る！⑨ (2016年1月号)

### スロベニア人の生活への満足度

スロベニア統計局が昨年行った、国民の生活の満足度に関する調査によると、スロベニア人の自身の生活に対する評価は、0～10のうち平均で7.1となり、2014年から0.2ポイント上昇しました。今回の調査では約67%の人々が生活の満足度を7～10で評価し、5以下をつけた人は全体の8%だけでした。

また、生活必需品が欠如していると答えた人の割合は5.8%で、2014年から0.8%低下しました。経済的な問題を抱える人の割合が減少したことが、国民全体の生活満足度の上昇につながったと見られています。

## スロベニアに迫る！⑩ (2016年1月号)

### クレント・カーニバル

スロベニア北東部にある国内最古の街として知られるプトウイ市では、毎年2月に伝統的なお祭り、クレント・カーニバルが開催されます。クレントとは、冬と邪気を追い払い、春を呼び込む悪魔として、古くから言い伝えられている民族的シンボルです。カーニバル期間中は昼夜にわたり、パレードやコンサート、民族文化のイベントなどが行われます。

今年で第56回目となるクレントのお祭り、クレントバニエ (Krentovanje) は、2月2日(火)から9日(火)にかけて開催され、メインとなるインターナショナル・パレードは7日(日)13時より開催されます。このパレードにはスロベニアのクレントに加え、オーストリア、ブルガリア、セルビアなど9カ国の代表が参加します。2011年には秋田県男鹿市より日本の「なまはげ」が参加しました。



(写真: クレントバニエ (Krentovanje) 公式サイト)

## スロベニアに迫る！⑪ (2016年2月号)

### スロベニアの国民的飲料「コクタ(Cockta)」

スロベニアには、「コクタ(Cockta)」というスロベニア人なら知らぬ者はいない国民的飲料があります。

1950年代初め、コカ・コーラが西欧を席卷していた時代に、政治的背景でアメリカの飲料が手に入らなかったユーゴスラビアにおいて、シロップとリキュールを製造していたスロベニアヴィノ(Slovenijavino)社に国内向け代替品の開発依頼が入ります。

オーナーのゼリンカ氏は、スロベニアで広く手に入る、様々なハーブ、砂糖、オレンジ、レモン、そしてローズヒップエキスといった、すべて天然の材料を使って代替品を開発し、英語のカクテル(cocktail)から「コクタ(Cockta)」と名付けました。調合の割合は今でも門外不出です。

販売されたコクタは当時としてはとても新鮮で、国中がスタイリッシュなポスターで埋め尽くされ、瞬く間に成功を収めました。

60年代にコカ・コーラがユーゴスラビア市場に出回ると、コクタの売り上げは一時低下しますが、ノスタルジックな広告手法に加え、すべて天然の材料を使用するというコカ・コーラとの違いを強調することで、スロベニア国内ではコカ・コーラと渡り合うほどの地位を確立しました。



(写真: Cockta 公式サイト)



## スロベニアに迫る！⑬（2016年2月号）

### スロベニアのタバコ事情

スロベニアでは、2007年に公共の場での喫煙を禁止するタバコ規制法が制定され、成人の喫煙者数が20%減少しましたが、2015年の統計では再び喫煙者数が増加傾向にあります。

日刊デロ紙の行った世論調査によると、80%が2007年のタバコ規制を評価すると回答しました。これに対し、より厳しい規制については、支持が過半数となりましたが、40%が現行法制で十分と答えています。

タバコ規制法改正案において保健省が提案するパッケージの均一化については、支持が43%にとどまり、電気タバコの公共の場での使用禁止については、40%が賛成と回答しました。

## スロベニアに迫る！⑭（2016年3月号）

### 知られざる温泉大国スロベニア

ヨーロッパで温泉というとハンガリーやドイツが有名ですが、スロベニアにも政府により正式に認定された温泉リゾートが15カ所あります。以前は、スロベニアの温泉リゾートといえば、旧ユーゴ時代に作られた療養施設の傾向の強いものが多かったのですが、近年、各地の温泉リゾートは競い合って施設のリノベーションを行って来ており、オーストリア、ロシア、ドイツ、クロアチアといった国々から多くの観光客が訪れています。代表的な温泉リゾートとしては、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣が社長時代に施設の大改修を行い、再建に成功した「Terme Olimia」や、水温約40度の日本式風呂を有する「Delenjske Toplice」の「Wellness Centre Balnea」があります。但し、「Balnea」の日本式風呂は男女混浴で水着着用不可のサウナ・セクションにありますので若干勇気が必要かもしれません。



(Balnea の日本式風呂 : terme-krka.com)



(写真: Terme Olimia)

## スロベニアに迫る！⑮（2016年3月号）

### プラハの近代建築の発展に大きく貢献したスロベニア人建築家

1872年にリュブリャナで生まれたヨジエ・プレチニックは、欧州でも最も独創的な分離派の建築家・都市計画家の1人として知られています。スロベニアではリュブリャナ市内の三本橋や聖ミカエル教会が代表的な建築物ですが、プレチニックは1911年からプラハに移住し、プラハ工芸学校で教鞭をとる傍ら、チェコスロバキア大統領（当時）の顧問建築家としてプラハ城と大統領府の修築に携わりました。その後、プレチニックはプラハで最も有名な教会の1つである、聖心教会 (Church of the Most Sacred Heart of Our Lord) をデザインし、チェコにおける名声を確たるものとした。

この功績を讃え、2014年にゼマン・チェコ大統領がスロベニアを訪問した際にも、プレチニックの眠るリュブリャナ市内の墓地を訪問しました。

なお、現在、スロベニア及びチェコ政府は、両国にあるプレチニックの代表的な建築物のユネスコ世界遺産登録を申請中です。



(聖心教会、写真: prague-guide.co.uk)

## プレチニックの主な作品

ツァッヘル・ハウス(オーストリア)、三本橋(スロベニア)、聖ミカエル教会(スロベニア)、スロベニア国立大学図書館(スロベニア)、リュブリャナ中央市場(スロベニア)、ジャレ墓地(スロベニア)、聖心教会(チェコ)、プラハ城・大統領府の修築(チェコ)

## スロベニアに迫る! ⑰ (2016年3月号)

### スロベニアの写真家が「Sony World Photography Award」を受賞

スロベニアのアマチュア写真家であるアンドレイ・タルフィラさん(Andrej Tarfila)の作品が「Sony World Photography Award」の「Open Travel」部門を受賞しました。受賞した作品は、スロベニアのクラン市とシュコフィア・ロカ市の境に位置するシロコ・ポリエ(Siroko Polje)の聖ウルシュラ教会を撮影したもので、世界中から応募のあった約9万5千もの作品の中から選ばれました。

なお、タルフィラさんは、876名もの写真家が作品を応募した「Slovenia National Award」も受賞しています。



(写真:スロベニア通信)

## スロベニアに迫る! ⑱ (2016年4月号)

### 国旗の日

スロベニアでは4月7日は国旗の日です。国旗の日は、スロベニアがオーストリア帝国の一部だった1948年4月7日、愛国者のロウロ・トマン(Lovro Toman)が現在の国旗から国章のない三色旗をリュブリャナ市内の通りに初めて掲げたことに由来します。

現在の国章付きのスロベニア国旗は、1991年6月24日に旧ユーゴ時代の憲法を改正した際に国会で定められたものです。

白・青・赤のスラブ三色旗に国章が付され、国章にはスロベニアの最高峰トリグラウ山が描かれています。山の下の波型はアドリア海や国内の河川を表し、3つの星は中世に栄えたツェリエ家の紋章に由来しているとされています。



## スロベニアに迫る! ㉑ (2016年5月号)

### 近代養蜂の父、アントン・ヤンシャ

スロベニアはハチミツの名産地として知られており、スロベニア全土で約1万戸の養蜂農家があります。スロベニア産ハチミツは品質の評価が高く、これはスロベニアの風土と養蜂産業の長い伝統によるものです。

スロベニアにおける近代養蜂の父と言われるアントン・ヤンシャ(Anton Janša)は、世界的に見ても養蜂業におけるパイオニアです。ヤンシャは1734年、スロベニア北西部ゴレンスカ地方の養蜂農家に生まれました。彼は絵の才能にも恵まれていましたが、養蜂家になることを決め、ウィーンで学びました。ヤンシャは新たな蜂箱の設計、雄バチと女王バチの役割の定義、ソバの花のハチミツの生産技術の確立など多くの功績を残しました。また、彼は持って生まれた絵の才能を生かし、蜂箱に絵を描くスロベニアの伝統も有名にしました。

ヤンシャの評判はすぐにハプスブルク帝国のマリア・テレジア女帝の耳に入り、インペリアル・ガーデンのお抱え養蜂家に任命されることとなります。ヤンシャの死後、彼の著作はハプスブルク帝国



(写真:スロベニア観光局)

内における養蜂の公式教科書となりました。

スロベニアがハチミツの国と言われる理由は養蜂家の活躍だけではありません。スロベニアを原産とするカルニオラ・ミツバチは、方向感覚が優れ、ハチミツの生産能力も高く、えさも少量ですむとして、評価の高い品種です。このミツバチは養蜂産業で世界的に使われており、世界第2位のシェアを誇っています。

## スロベニアに迫る！⑳ (2016年6月号)

### 南リュベリ強制収容所解放71周年を記念する木本晴二氏による展覧会

9日、南リュベリ(Ljubelj)強制収容所解放71周年を記念する木本晴二氏による展覧会「Power and Powerless」のオープニング式典がスロベニア北西部トルジッチ(Trzič)市で開催されました。本展覧会はトルジッチ美術館とトルジッチ市の共催で7月9日まで開催されています。

木本氏はドイツを拠点に活躍する彫刻家で、人間の存在や自由と束縛をテーマに、力の濫用と苦痛に焦点をあてており、今回の展示会の12作品はヨーロッパの強制収容所の被害者に向けて創作されています。



(オープニング式典に参加する木本氏(右))



(木本晴二氏の作品)

南リュベリ強制収容所は1943年6月3日にドイツ軍によって建設され、収容者はリュベリを通過するトンネル建設のために働かされました。同強制収容所にはフランス、ポーランド、ユーゴスラビアなど多くの国々から1800人以上が収容されました。1542メートルのトンネルを建設した8ヶ月間で40人が亡くなり、生き残った収容者も完成後に別の収容所に移送され多くの者が殺されました。その後南リュベリ強制収容所は1945年5月7日に解放されました。

## スロベニアに迫る！㉑ (2016年7月号)

### ヴルシッチ峠のロシア礼拝堂

スロベニア北西部ヴルシッチ峠には、第一次大戦時に亡くなったロシア兵捕虜を慰霊するロシア礼拝堂があります。

1915年、この地域を支配していたオーストリア軍は補給ルート確保のため軍事用道路の建設を決め、労働力不足のためロシア兵捕虜を強制的に働かせました。しかし、1916年3月、急斜面で大規模な雪崩が発生し、多くの人々がのみ込まれました。正確な犠牲者数は分かっていませんが、約170~300人のロシア人捕虜と10~70人のオーストリア軍兵士が亡くなったと言われています。

その後同年11月に、ロシア兵捕虜により記念碑としロシア様式の礼拝堂が建てられました。教会は木造で、両側にロシアでよく見られるバロック様式の円屋根を持つ小さな2つの塔があります。雪崩の犠牲者は、礼拝堂の隣にある小さな墓地に埋葬されています。

この礼拝堂では毎年犠牲者を追悼する式典が行われ、ロシア人司祭のほかスロベニアやロシアから代表団が出席しています。昨年はメドヴェージェフ・ロシア首相が出席し、100周年となる今年はプーチン大統領が出席しました。



(写真:スロベニア観光局)

## スロベニアに迫る！ ㉕ (2016年7月号)

### 統計から見るスロベニア独立25周年

6月26日にスロベニアは独立25周年を迎えましたが、日刊デロ紙はこの25周年を統計で振り返る記事を掲載しました。

25年間でGDPは約4倍となり(一人あたりGDPは約3.7倍)、法人数も約5.5倍に増加しました。またスロベニアを訪れる観光客数も約2.8倍となっています。

経済分野で大きな躍進を記録した一方で、平均寿命の上昇に伴う高齢化が進行しています。全人口に占める65歳以上の高齢者の割合は独立時から7.4%上昇して18.4%となり、年金の財源確保などが課題となっています。

項目	1991年	2016年
人口(人)	1,999,945	2,064,188
出生率	1.42	1.52 (2014)
平均寿命(女性/男性)	77.5 / 69.5 歳	83.5 / 78 歳
平均年齢	36 歳	43 歳
高齢者(65歳以上)比率	11%	18.4%
GDP(名目、百万ユーロ)	10,271	39,598
一人あたりGDP(ユーロ)	5,131	19,158
平均純月収(ユーロ)	43	1,021
インフレ率	341%	-0.5% (2015)
法人数	13,309	72,204
輸出額(百万ユーロ)	5,147	23,942
観光客数(人)	1,425,000	3,928,000
高速道路距離	128 km	610 km

## スロベニアに迫る！ ㉖ (2016年7月号)

### スロベニアのリオ五輪選手団

いよいよ開幕するリオ五輪には、スロベニアより陸上、柔道、カヤック、カヌー、セーリングなど15種目に初出場35名を含む60名の選手が出場します。スロベニアは2004年のアテネ五輪以降、各大会で4~5つのメダルを獲得しています。前回のロンドン五輪では柔道女子のウルシュカ・ジョルニル(Urška Žolnir)選手の金メダルをはじめ、ハンマー投げで銀メダル、ボートと射撃でそれぞれ銅メダルに輝き、計4つのメダルを獲得しました。スロベニアはウィンタースポーツのイメージが強いですが、人口1人あたりの夏季五輪メダル獲得数で世界上位6カ国に入ります。

リオ五輪での注目選手は柔道女子63キロ級のティナ・トゥルステニャク(Tina Trstenjak)選手で、欧州選手権や世界選手権で優勝しています。また男子73キロ級のロク・ドラクシッチ(Rok Drakšič)選手も欧州選手権でメダルを獲得しています。



(ティナ・トゥルステニャク選手 (写真: judoinside.com))

## スロベニアに迫る！ ㉙ (2016年8月号)

### リオ五輪でのスロベニア選手団の活躍

スロベニア選手団は、リオ五輪で金メダル1個、銀メダル2個、銅メダル1個の計4個のメダルを獲得し、人口比メダル獲得数において世界第7位(欧州諸国では第3位)となりました。柔道ではスロベニア選手の中でメダル最有力候補であった女子63キロ級のティナ・トゥルステニャク選手が、決勝でフランスの選手を破って金メダルを獲得し、スロベニアはロンドン五輪のウルシュカ・ジョルニル選手に続いて本階級を二大会連続で制覇しました。また女子78キロ級のアナマリ・ヴェレンシエク選手も銅メダルを獲得しました。

男子セーリング・フィン級では40歳のヴァシリ・ジュボガル選手が銀メダルを獲得し、同選手にとって五輪で3つ目のメダルとなりました。ジュボガル選手はレース後に引退を表明しました。

また、男子カヤックではペテル・カウゼル選手が銀メダルを獲得し、過去に世界選手権や欧州選手権で優勝していましたが、五輪では初めてのメダルとなりました。



金メダルを獲得したティナ・トゥルステニャク選手 (写真: www.slovenskenovice.si)

大会後にデロ紙が行った調査では、スロベニア人の85%が五輪での代表団の活躍に満足と回答し、最も印象に残った競技では、第1位が柔道(63%)、続いてハンドボール(15%)、セーリング(9%)、カヤック(4%)となりました。

## スロベニアに迫る! ㉗ (2016年8月号)

### スロベニアの医療:「eHealth」システム

スロベニアでは、医療サービスの質、効率性及び安全性の向上を目的に、医療制度の電子化を目指すプロジェクト、「eHealth」システムが進められています。同プロジェクトは、保健省によって2008年に開始され、現在は国家公衆衛生研究所が実施・運用を行っています。2016年までに計画された全17分野で試験運用がなされ、徐々に実用化が開始されており、重要項目の一部として以下の3分野があります。

1. **患者情報中央電子登録システム(CRPP)**: 権限の与えられた医療従事者が、患者の診療記録及び持病等の個人情報にアクセスすることを可能とする、「eHealth」の根幹となる統一のデータベースです。
2. **電子処方箋(ePrescription)**: 患者の担当医から直接薬局に電子処方箋を送付し、薬を処方します。特に長年常用している薬が切れた場合など、医者が患者の最寄りの薬局に電子処方箋を送付することで、患者は直接病院に行くことなく薬を購入可能になります。
3. **電子予約システム(eAppointments)**: 地域医療の根幹となる総合病院等の二次医療への紹介等患者の予約情報を医療機関間で共有します。これにより医者は待ち時間の少ない医療機関へ患者を紹介でき、患者の待ち時間が短縮されます。

## スロベニアに迫る! ㉘ (2016年9月号)

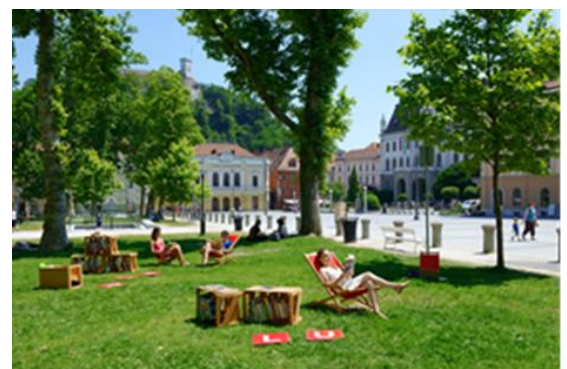
### 持続可能な目的地(Sustainable Destination)選出

9月27日から2日間にわたり、リュブリャナ城にて世界緑の日会議(Global Green Destination Day Conference)が開催され、持続可能な目的地トップ100(Sustainable Destination Top100)が発表されました。スロベニアからは、「リュブリャナ」及び「Slovenia Green Destination(ノヴァゴリツァ、ブルダ、マリボル、プトウイ、クランスカゴラ、ベラクライナ、ヴェレニェ及びスロベングラデツより構成)」が選ばれ、後者は100の基準のうち96%を満たし世界一の持続可能な目的地に選出されました。「2016年欧州緑の都市」でもあるリュブリャナ市は、前回の2014年にも持続可能な目的地トップ100に選ばれ、今回の会議の開催地となりました。

オランダを拠点とする団体「Green Destinations」の設立者であるアルベルト・サルマン氏は、スロベニアを「素晴らしい地」と賞賛し、スロベニアの人々に対し、今後も美しさ、緑地の多さ、旅行者の信頼性といったスロベニアの良さを継続させるとともに、今回の選出を受けて自国に誇りを持ってほしいと述べました。

スロベニアは小さな国ですが、持続可能な観光事業への大きなステップを踏んでいる国として徐々に国際的に知られてきています。

今回の会議は、世界観光の日(World Tourism Day)と合わせて開催され、観光事業に携わる欧州の専門家だけでなく、東ティモールやボツワナ、ルワンダ、インドネシア、南アフリカからも専門家が参加しました。



(写真: Green Destinationsホームページ)